

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名：富山市立呉羽保育所

第三者評価機関名：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

評価確定年月日：平成 28 年 3 月 30 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

1. 職員の結束と現場力での保育

・若い保育士・男性保育士・ベテラン保育士などがバランスを考え配置され、正・非の雇用形態や各々の職務にとらわれず、職員一人ひとりが様々な知識と経験や技術を有効に発揮して、特別な配慮を要する子ども・食物アレルギー有の子ども・外国籍保護者の子どもなど、様々な状況にある子どもの養護と教育を一体的に実施している。職員は、保育所職員として自らを律し、職務を適切に遂行していく自覚があり、保育内容を定期的に自己評価し、現状水準を十分認識しながら、日頃から職場内研修や外部研修、自己研鑽で専門性を高め、保育にあたっている。また、保育の内容を具体的に把握し、現場職員の連携と協力が得られる中、看護師など専門的職員を確保し、健康管理を重視して取り組んでいる。現在の実績を核として、さらに児童福祉の観点から、より豊かな保育の発展に邁進される事を期待したい。

2. 情操教育・食育の連続性と安全体制づくり

・周囲の恵まれた自然環境の中、地元の学校などの協力を得て、年間3回のコンサート(レインボー・サマー・ウインター)を関係機関や地域住民の方々を招いて開催しており、子ども達と一緒に音楽を聴いたり歌を歌ったりする機会がある。地域のボランティア指導による畑作りや花壇作りでは、子どもが水やりなどのお世話をしている。子ども達は共同的な遊びの中で友達と一緒に活動する楽しさを経験し、約束事や決まり事を作って日々成長している。保育所では、音楽活動や花壇作りは情操教育に、畑作りは子どもの食育にそれぞれ役立っている。また、安全確保が生活の基本であり、保育所独自のリスク別マニュアルを策定し、子どもの自発的・主体的な活動を重視して、子どもの生活の連続性・遊びや学びの連続性・発育と発達状態の把握・感染症など疾病の対応・安全衛生管理・災害避難訓練など、真摯に取り組んでいる。

◇ 改善を求められる点

1. 保育計画と保護者支援の充実

・指導計画、ケース会議、各種アンケートなどの書類は、多岐にわたり詳細に記入されている。しかしながら、より見やすい方法に工夫することで引継ぎ時や記録の振り返りをする際に職員が理解しやすい書類になるものと思われる。評価や振り返りが次に生かせるよう一目で分かるように工夫をすることで、指導計画に連続性が生まれ、より保育の質の向上に結びつく事を期待したい。また、保護者アンケートなどを積極的に採り、行事面だけでなく、保護者の多様なニーズを受け止め、保護者ととともに一人ひとりの子どもに寄り添いながら保育計画の充実や支援の充実に努められたい。保護者の要望や意見などは、集計・分析し改善点を確実に報告することで、より望ましい保育所の在り方や方向性が見えてくるものと思われる。

2. 建物環境や送迎環境の計画的な見直し

・園舎は、半世紀の年月を経過している建造物であり、機能や使い勝手、送迎などの面で幾つかの課題が見受けられる。予算的な背景や様々な制約上の問題を予想するが、周辺環境と建物を一体的に研究し、地域の福祉拠点として次世代を担って行けるような視点に立っての計画的な見直しが望まれる。特に、駐車場が少ないうえに園舎までのアプローチが長く、送迎時に乳児を連れた保護者や荷物の多い時や天候の悪い日は特に苦勞するものと思われる。安全面も考えて駐車場の問題解決が必要であると思われる。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

・保育理念・基本方針は明文化され、玄関掲示や重要事項説明書に掲載されている。理念及び基本方針の職員に対する浸透の取り組みとして、年度当初の職場会議で話し合い、共通理解と周知を図っている。保護者向けには入所式や継続児保護者懇談会で説明し理解を得ている。また、地域住民や関連機関には、生活発表会やコンサートの参加などの機会をとらえて理解を得られるよう努めている。

・中期計画は市の子育て支援課で5ヵ年計画として策定されているが、それ以上の長期計画は策定されていない。支援課計画は保育課程に反映されているが、さらに地域特性や長所が盛り込まれた保育課程になるよう望まれる。単年度の事業計画は、市で予算化提示された資料をベースに各クラスや各年齢別に検討会議がなされ、年間指導計画を作成している。また、保育の計画や年間行事計画は、職員や保護者の意見や意向を取り入れ、職員がいつでも確認できる場所に設置されている。保護者には出来上がった計画を、入所説明会や保護者総会で資料配布と共に説明を加え理解が得られるよう努めている。

・職員からの改善のための提案は、年齢クラス別・縦割りクラス毎に少人数での打ち合わせを重要視して意見が出やすいよう運営しており、そこで出た意見に肉づけをして、環境と保育の見直しや改善にも繋げている。また、職員は、保育計画や保育記録を通して自己評価を行っている。その経過や内容はデジタル化され保存されている。自己評価にあたっては、子どもの活動内容や取り組む過程に配慮し、クラス別の課題ではなく保育所全体の課題として捉え、職員全員の参画のもとで改善に取り組んでいる。

・職員研修は、富山市子育て支援課主催の年間研修計画を軸に、年間研修計画を作成しており、職員の持つ専門性や資質を分析し、生涯教育として計画している。また、保育の質の向上を図るには本人の資質向上が基本との考え方を基礎とし、研修や自己研さんが重要であると認識している。

・保育所職員全員で、プライバシーの尊重や秘密保持の原則・差別扱いに注意するよう、説明や教育が実施され周知が図られている。保育所だよりを始め、発刊物はプライバシーの侵害に当たる箇所がないか複数の職員でチェックしている。

・保育所の玄関には、保護者が送迎時に目につく場所に感染症情報や給食メニュー・行事の案内などを掲示している。園外向けの行事や運動会のポスターは、行政センターや商店街などに掲示して参加を呼びかけている。また、行事を開催した時に保育所の取り組み内容を紹介し、子ども達のように写真を写真やコメントで発信している。

・個別懇談会や保護者懇談会で、保護者から行事の希望をアンケート聴収しているが、苦情箱には意見や要望の投函はない。

・リスク別マニュアルが整理され、職員が周知しており諸機関の協力を得て、安全点検や訓練に努めている。また、衛生管理については、保育室・トイレ・調理室・調乳室・園庭・プールなど点検や安全対策を実施している。

・チャイムやマイク設備を活用し、給食時に子ども達が放送で食事内容の伝達を行うなど、挨拶やしつけが身につけている様子が窺える。

2 地域の住民や関係機関との連携

・年2回の健康診断の際、連携医から地域で流行している病気や感染症の情報を入手し、園児の健康管理や対応に生かしている。緊急の場合は連絡や相談できる体制を構築している。個別配慮児には、専門機関から来所して貰い、療育指導などを受けている。また、保健センターの保健師と連絡を取り合う体制を構築している。地域の関係機関からの情報については、正規職員と情報の伝達や共有化を図っているが、非正規職員にも、その取り組みを図れるよう工夫が必要である。

・修了児を招待して同窓会を行ったり、年長児が小学校を訪問したりして交流の機会を作っている。小学校教諭と保育所職員との話し合いの場づくりや研修などの連携は今後の課題である。

・地域団体との交流の場があり、保育所長が会合に出席している。地域の民生委員児童委員とは懇話会などで交流の機会があり話し合いの場を持っている。また、児童相談所とも連携を取れる体制を構築している。

・校下の敬老会や華街道呉羽祭りの地域行事に参加したり、高齢者施設訪問など地域住民や高齢者と交流する場があり、年間行事計画に組み込んで実施している。また近隣の人々や地域住民の方々を、保育所で開催する年3回のコンサートに招き、園児と一緒に歌を歌ったりして楽しんでいる。さらに地元企業の相撲部と地域性を生かした相撲大会を毎年開催し、園児の意欲や体力づくりに役立っている。

・専門学校からの実習生の受け入れについては、実習担当者が決められており、学校や実習生と一緒に「実習プログラム」を作成し、職員の協力のもとに取り組んでいる。取り組み内容や経過は整理され、実習体験後には感謝のメッセージが寄せられている。

・園庭の花壇のお世話や食育にも力を入れており、ボランティアの協力を得て効果を上げている。また中学2年生の「14歳の挑戦」や高校生の「インターンシップ」も行われ、特に高校生との関係は親密で年長児が運動会や文化祭に招待されている。保護者には、その都度玄関掲示などで案内し情報の発信と理解を得ている。

3 子どもの発達援助

・一人ひとりの子どもに寄り添い自主性を尊重した日々の保育の成果があらわれている。異年齢児(3・4・5歳児)のクラスが2階に4クラスあるが、それぞれ個性があり、子どもたちと話し合っのクラス運営を心がけている。いきいきとした元気な子どもたちの目の輝きから、保育所での生活の充実ぶりが伝わってくる。

・保育士が得意としている分野を子どもたちに浸透させており、それがクラスの個性として現れている。食前の時間、当番が配膳などの用意をする間、担当の保育士は、子どもたちに絵本(野菜の相撲)を読んで待つクラス、リクエストでピアノ曲を流すクラスなど、得意分野をフルに発揮し、時間を活用している。職員間のチームワークがあってこそ出来ることであり、保育の質の高さを実感できる。

・地域ボランティア、保護者の協力で作られた花壇は、地域の方からいただいた種や苗を植えた花壇・配布された苗を植えた花壇・子どもたちが自由に摘んで遊びに使う花壇の3つに分かれており素晴らしい。子どもたちが、花壇で育てたきれいな花をお部屋に飾ったり、ままごと遊びに使用したりし、自然とのふれあいが心の豊かさを育んでいる。

4 子育て支援

・親子サークルを年間、30回開いており、地域の情報を収集したり、育児相談を実施したりと子育て中の家庭からも信頼されている。富山市の看護師、栄養士や地域の母子福祉推進員などと連携し、専門分野の講師になっていただいたり、相談にのっていただいたりと、充実した取り組みを行っている。

・保育参加・個人面談・食育の集い・懇談会等を定期的に行っており、保護者からも「楽しかった。もっと参加したい。」との要望もある。アンケートをとるなど、内容も考慮されている。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けるにあたり、職員一人一人が自己評価をする中で、自分の保育がこれよりいいのか又より良い保育をするにはどうしていけばいいのか等を考え、新たな気づきがたくさんありました。職員間で話し合う機会を多くもち、保育を見直すよい機会となり、感謝しております。

高く評価していただいた点については、更なる向上を目指し、今後も継続していきたいと思えます。又、改善すべき課題については、保護者からの要望や意見に積極的に耳を傾け、より良い保育サービスが提供できるよう尽力し、地域に根差した保育所となれるよう評価結果を真摯に受け止め、職員の意識向上と保育の質の向上へとつなげていきたいと思えます。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず、利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（ＡＢＣＤ評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1) 基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	A
(2) 中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	A
(3) 組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	A
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4) 守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5) 情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	C
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6) 安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7) 人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	B
(8) 経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	B
(9) 管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	B

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1) 地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	B
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	B
(2) 実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	B
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもの関係する全職員に周知されている。	B
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	B
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	B
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1)入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2)多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	B
(3)地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	A
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	A